

お わ り に

群馬大学共同教育学部附属小学校 副校長 石関 和夫

令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、3年間余り続いた様々な制限が取り払われ、概ね通常どおりの教育活動を行えるようになりました。

本校の大切な行事である運動会も、9月に全校の子どもたちが一堂に会して開催することができました。本校の運動会は、各学年の3学級を3つの団に分けて異年齢集団をつくり、「赤城団」、「榛名団」、「妙義団」として、団別対抗で行っています。特に、目玉となるのは、「全員リレー」です。5月にも「リレー大会」として前哨戦を行っていますが、運動会では、リレー大会で記録したタイムをさらに縮めることや、リベンジを果たすことなどを目的に、みんなで作戦を練り直したり、休み時間に遊びを返上して自主練習に取り組んだりする姿が見られました。また、運動会当日も、バトンパスの仕方をアドバイスし合ったり、学年を越えて団の仲間を全力で応援したりする姿が見られました。成績発表の際には、多くの子どもが、やり切った満足感のある表情を見せていました。中には、喜びや悔しさから涙を流す子どももありました。運動会が、子どもたちにとってよい学びの機会となっていることを実感しました。

運動会は、本校の教育活動のほんの一部に過ぎませんが、子どもたちの姿から、「目標への情熱」や「粘り強さ」、「他者と協働する力」といった「非認知能力」が、子どもたちのよりよい成長に非常に大きな役目を担っていると改めて感じたところです。

予測困難な時代が到来しています。子どもたちが、社会の中心となる30年、40年後には、さらに加速していると考えます。このような状況の中、子どもたちがよりよい生活を送れるようにするためには、自ら課題を見付け、他者と関わりながら最適解や納得解を見出していく力が不可欠です。そのための重要な要素が、「非認知能力」であると考えます。

本校では、昨年度から、研究主題を「共によりよい生活を創造する子どもの育成」とし、「非認知能力」に着目した研究を進めてきました。2年次となる今回は、「非認知能力」の中でも「他者と協働する力」に視点を当て、副主題を「非認知能力『他者と協働する力』を発揮する学びのデザイン」としました。各教科等部においては、子どもたちが授業の中で「他者と協働する力」を発揮した姿を明らかにしてきました。また、各教科等の特性による「他者と協働する力」を発揮することに対する困難さから、「他者と協働する力」が発揮されるまでの学びのプロセスを捉え、そのプロセスを基に、学びのデザインを工夫して実践を行ってきました。ぜひ、本研究会において、本校教員が創り上げた研究と授業をご覧いただき、皆様からの忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

結びに、本研究を進めるにあたり、深いご示唆をいただきました群馬大学共同教育学部の研究協力者の先生方、また、熱心なご指導と丁寧なご助言をいただきました群馬県教育委員会をはじめとする関係諸機関の皆様に厚くお礼申し上げます。